

## ともに考える防災の未来—私たちの仙台防災枠組 講座シリーズ「仙台防災枠組から考える私たちのBOSAI（応用編）」を開催しました（2017/08/06）

テーマ：仙台防災枠組、世界防災フォーラム、国連世界防災会議  
場所：東北大学災害科学国際研究所 多目的ホール

8月6日（日）に「仙台防災枠組から考える私たちのBOSA（応用編）」が仙台市と災害科学国際研究所の主催により開催され、当研究所の今村文彦所長が講義を行いました。この講座は、昨年からはじめ、今年が第2回目の講座シリーズとなります。企業、SBL（仙台市地域防災リーダー）、自治会などから約30名の方々が参加されました。今回は、市民の代表として、せんだい女性防災リーダーネットワーク、将監西町内会、特定非営利活動法人 防災士会みやぎから3名の方々にご自身の地域や学校における防災活動をご紹介いただきました。最初に、今村所長から「仙台防災枠組」のさらなる「活用」と「発信」のためには、「枠組を地域活動の“エンジン”にして、現在の取り組みを後押しする、また、地域活動を世界に発信することによって、枠組の優先行動実現への取り組みを世界中に広めることに貢献できる」とのお話がありました。

せんだい女性防災リーダーネットワークの方からは、「地域に暮らす多様な人々に配慮した体制と支援が重要であり、災害リスク意識の啓発、女性がリーダーとなって地域に関わることは、子供や高齢者、障害のある人たちも防災・減災の一期啓発に関わりやすくなる」といったメッセージを頂きました。将監西町内会の方は、「ハザードマップなどの情報により、災害リスクを理解し、リスク管理表を作成する。また、災害リスクを明記した防災マップを更新し、地域住民へ告知し、避難訓練への参加を呼びかけることが重要」と意見を述べられました。さらに、防災士会みやぎの方からは、「仙台防災枠組は、地域の防災活動の“拠り所」となり、その達成のために地域からも貢献できる。その活動として、災害からの教訓を伝え、“自分だったらどうするか”を考えることから、家族や地域を守ることができる」と強調されました。

その後、グループワークとなり、各グループで現在取り組んでいる防災活動が「仙台防災枠組」の4つの優先行動のうち、どれに当てはまるか、また、それらの活動をさらに良くするためにはどうすればよいか、何ができるのかについて議論が行われました。

最後に、今村所長が「社会の様子を理解し、都市化、高齢化、空家の増加などの社会の変貌に適応する防災活動が必要であり、そのためには、日頃の挨拶などのコミュニケーションが大切」との言葉で、講座を締めくくられました。



今村所長の講義



グループワークの様子